



佐々木 敏 議員

質問①

旧特別養護老人ホーム

類似ソビラ荘について

現在どのような利活用を考えているのか伺いたします。

旧特別養護老人ホーム 類似ソビラ荘につきましては、令和3年の3月の定例会におきましても、具体的な活用方法の可能性などを含めましてご質問がありました

が、町の方針としましては、施設の維持管理を町が直営で行うことは、将来についての維持、経費を伴うものと想定されることから、民間の管理運営等を前提としており、地方創生に繋がる利活用が出来ればと考えておりますが、一年前からあまり進展してないのが現状です。 町としましては、施設を活

用することによって将来的に財政的な部分も含め、まちづくりプラスになるような活用方法を模索してはいますが、具体的な事業を決めて支援金の創設や修繕等を含め町が費用を負担し、民間を誘致したり町直営で活用する考えには至っていません。

利活用に際し補助金等の支援が必要と思うが。

今の段階では利用したい方の意見を聞きながら、補助金の制度設計については協議させていただく中で進めてまいりたいと思っております。



質問②

遠距離通学費の

助成の見直しについて

11月30日開催の社会文化常任委員会で遠距離通学費の見直しで3分の2を助成するという事で子育ての負担軽減になりますが、全額助成について今後考えているのかお伺いします。

11月30日開催の社会文化常任委員会の際に、今後の通学費助成の見直しの方向性について説明させていただきましたが、現状の課題として、一つ目に通学方法を申告していただいておりますが、実態の確認が難しく、誤りやあいまいな部分がある点、二つ目に小学校も含めて助成の対象地区とそれ以外の地区において負担の差が大きいという点がありました。

今後の見直し方針としては、小中学校ともに助成対象地区を会所町から西側、平宇から東側に拡大した上で、自転車通学の月500円を廃止するかわりに、バス代に対する助成を定期券購入代金の3分の2を助成する方向で検討しておりますが、今後このように実施して新たに対象とな

る地区も含めて利用状況を把握し、制度全体を考えて見直しをしなければならぬかを再度検討させていただきたいと考えております。



質問③

アポイ山荘福祉バスの

運行について

アポイ山荘との話し合いはどのような形になっていくのかお伺いします。

アポイ山荘と協議をさせていただき、運行する人員の問題や新たな試みで実施体制に不安は残るが、送迎サービスは行いたいと思っております。体制が固まれば実施したいと前向きな返答をいただ

きました。 昨年度及び直近までの福祉バスの利用者数をお伺いします。

令和3年度は延べ人数1,076人、今年度は4月から11月末まで延べ人数576人で、令和3年度の月平均90人弱、今年度72人と減少傾向にあります。

今後の町の考え方を伺います。

新しいマイクロバスが確保出来たのでJRバスからアポイ山荘への移管を考えています。それにより、岡田・田代方面の利用者の乗り換えの不便さの解消や可能な限り利用者宅付近での乗降が出来る方法により、利用者の利便性の向上、高齢者福祉の推進に繋がっていくと考えております。

マイクロバスについては、今年度中の納車が見込めないため、令和5年度はJRバスでの現状運行となり、5年度中に車両を確保した上で、アポイ山荘での送迎を取り進めていく方針です。



根城 悌 司 議員

質問①

全国学力・学習状況

調査の結果について

公表された結果について率直な感想をお聞きたい。

学力については、小学校・中学校ともに全国平均には届いていないが、小学校は前年度より改善が図られていると感じている。

一方、学習状況調査においては家庭学習時間の割合が全国平均に比べて低く、反対にゲームやSNSなどに費やす時間の割合が非常に高く、重要な課題と考えている。

調査のたびに格差がついているように思うが具体的な対策について。

小学校の国語では、平成31年度は全道平均より

下回っており令和3年度はさらに格差が大きくなったが、令和4年度は全道平均と同じところまで回復している。算数は令和3年度から改善し、令和4年度全道平均と全国平均の中間に位置しており、昨年より伸びている。

中学校の国語は令和3年度は全国平均を下回りましたが、令和4年度は全道全国との差は縮まってきている。算数は全道全国との差は変わっていない状況である。

以上の結果から必ずしも格差が広がっているとは思われないが、改善している部分、まだ弱い部分があつており、その対策としては習熟度別授業や学習支援員による個別支援、放課後学習や家庭学習指導の実施などの取り組みを行っている。

デジタル端末の利用の現状について。 ギガスクール構想により児童生徒1人1台端末を整備しているが、通常の授業においては1つ目に1部導入している。デジタル教科書の

11月30日開催の社会文化常任委員会で遠距離通学費の見直しで3分の2を助成するという事で子育ての負担軽減になりますが、全額助成について今後考えているのかお伺いします。

11月30日開催の社会文化常任委員会の際に、今後の通学費助成の見直しの方向性について説明させていただきましたが、現状の課題として、一つ目に通学方法を申告していただいておりますが、実態の確認が難しく、誤りやあいまいな部分がある点、二つ目に小学校も含めて助成の対象地区とそれ以外の地区において負担の差が大きいという点がありました。

今後の見直し方針としては、小中学校ともに助成対象地区を会所町から西側、平宇から東側に拡大した上で、自転車通学の月500円を廃止するかわりに、バス代に対する助成を定期券購入代金の3分の2を助成する方向で検討しておりますが、今後このように実施して新たに対象とな

に検討し、テキストと映像教材を使ったオンデマンド学習と民間の塾講師による個別サポートを組み合わせた形態を考えている。 対象は小学校5年生から中学校3年生までで教科は国語、算数・数学を考えている。 授業料・テキスト代は町負担として想定している。 オンラインを活用することで時間や場所の制約が少ない中で家庭学習支援の取り組みとして、来年度の早期に実施できるように検討している。

町長の選挙公約である「学習塾」の進捗状況について。 先行して実施している他市町村の事例等も踏まえ、当町で実施する場合はオンラインを活用した方式を軸

きました。 昨年度及び直近までの福祉バスの利用者数をお伺いします。

令和3年度は延べ人数1,076人、今年度は4月から11月末まで延べ人数576人で、令和3年度の月平均90人弱、今年度72人と減少傾向にあります。

今後の町の考え方を伺います。

新しいマイクロバスが確保出来たのでJRバスからアポイ山荘への移管を考えています。それにより、岡田・田代方面の利用者の乗り換えの不便さの解消や可能な限り利用者宅付近での乗降が出来る方法により、利用者の利便性の向上、高齢者福祉の推進に繋がっていくと考えております。

マイクロバスについては、今年度中の納車が見込めないため、令和5年度はJRバスでの現状運行となり、5年度中に車両を確保した上で、アポイ山荘での送迎を取り進めていく方針です。

質問②

保育所・幼稚園の

事故防止対策について

全国で多発している保育所・幼稚園児の通園バスへの置き去り事故防止対策について。

当町の幼児センター通園バスの運行にあたっては、以前よりバス添乗マニュアルを作成し対応にあたり、添乗する職員と運転手

が乗り降りの都度園児の氏名を確認し、人数確認のダブルチェックを行っている。これら一連の対応については、チェックリストを作成しており、係長・主幹・園長が最終確認している。なお、毎朝9時までに保護者から欠席の連絡がなく園児が通園しない場合は、園から保護者に電話連絡し、園児の状況を確認し職員間で情報共有している。

また、車両への閉じ込め事故はバス以外にも乗用車などでも起こり得ることです。外部に知らせる手段として車のクラクションを鳴らす訓練を実施している。

なお、事故の多発を受け厚生労働省においては、令和5年度より通園バスへの監視カメラ等安全装置の設置が義務付けられており、その詳細が示され次第設置の方向で対応させていただきます。いずれにしても、万一事故が発生することとは保護者をはじめ多くの方々に迷惑をかけることとなりますので、万全に万全を期しながら対応していく。

全国的に多発している保育所・幼稚園児の通園バスへの置き去り事故防止対策について。